～開催趣旨～

長谷川　亘　Wataru Hasegawa

一般社団法人日本IT団体連盟　筆頭副会長

京都情報大学院大学・京都コンピュータ学院統括理事長
京都情報大学院大学教授
一般社団法人京都府情報産業協会　会長
一般社団法人全国地域情報産業団体連合会　会長

日本の慢性的なIT人材不足

通産省「情報処理技術者の需給予測」

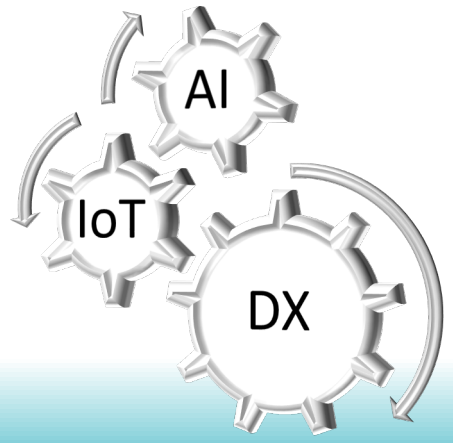
- 1984 年の予測：1990 年に，60 万人不足
- 1987 年の予測：2000 年に，97 万人不足
- 1992 年の予測：2000 年に，54 万人不足

経産省「IT人材需給に関する調査」

- 2019年の予測：2030年に，79万人不足

ITの人材不足

- 今後，日本の労働人口（特に若年人口）は減少が見込まれており，IT人材の獲得は今まで以上に難しくなる。
- IT需要が拡大する一方で，国内の人材供給力が低下し，IT人材不足は今後より一層深刻化する事は明らかである。
- 今後ますますIT利活用の高度化・多様化が進展することが予想され，人材の**質的な需要**も高まる。



従来型IT人材から

先端IT人材へのスキル転換

国内外からIT人材を

確保・育成

本ワークショップの主旨

- 新型コロナウィルス感染症拡大の影響により，テレワーク，eラーニング，WEB面接，遠隔診療など明るい未来にはITのフル活用が不可欠
- 人類社会全体のデジタル化の加速を担える優れた人材を獲得し育成することは，一層の急務

今回のワークショップでは，
国内外において人材の発掘と育成に携わる教育機関関係者・IT企業関係者を迎え，それぞれの**現状と問題意識**を共有し，今後の**打開策を模索**します。